

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 26 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20530843

研究課題名（和文）地方の課題を歴史的に考察させるための郷土人物教育内容開発研究

研究課題名（英文）A development of teaching materials to study historical figures who try to solve the problem in our home

研究代表者

児玉 康弘（KODAMA YASUHIRO）

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：70377167

研究成果の概要（和文）：郷土新潟と関わりの深い4名の人物（川村修就，北一輝，田中角栄，良寛）の社会的課題に対する取り組みについての新しい教育内容を開発し，附属学校等で実験授業を行い，生徒に感想文を書かせて，その有効性を検証した。

研究成果の概要（英文）：This study aim for development of teaching materials to learning for historical figures such as Nagata Kawamura, Ikki Kita, Kakuei Tanaka, and Ryokan. These people tried to solve some problems in our home Niigata. Developed materials has been proved educational efficiency for learning history in junior high school attached to Niigata University.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学（4003）

キーワード：歴史教育，人物学習，教育内容開発

1．研究開始当初の背景

長引く不況の中，地方と中央の地域間格差が顕著となる社会情勢において，あらためて地方（周辺）と中央（中心）の関係を生徒自身にも考えさせるような教育内容開発が必要となっていた。特に，地方の課題を歴史的に考察させるための人物学習を構築していくことに教育的効果が望めると考えられた。

2．研究の目的

近現代の日本の社会構造における地方と日本全体の課題解決のために，新潟県に属した人物がどのような取り組みを行ったの

かを，生徒たちが主体的かつ批判的に考察することのできる人物学習のための教育内容を開発することを目的とした。具体的には近世から近現代にかけて活躍した新潟に関係した人物の教育内容開発を行うことを目指した。新潟は近世幕藩体制期には，北前船等により，三都に結びつく商業・経済システムに結びつけられて繁栄していた。しかし，明治期以降になると，太平洋側の近代化のための後背地として，ヒト、モノ、カネの供出が続き，周辺化・裏日本化が推し進められた。高度経済成長期には大都市部からの富の再配分や移転が行われ，周辺化が緩和される政

策が推進された。しかし、現代の長引く不況の時代になると、再配分機能が失われ、再び格差が拡大するとともに周辺化が進展している。本研究では、近世新潟の諸課題に取り組んだ人物として、初代新潟奉行の川村修就を取り上げた。近代化の中で生じた日本社会の矛盾を解決しようとした人物として北一輝を取り上げた。高度成長期に中心部との格差を是正しようとした人物として田中角栄を取り上げた。また、これからの時代の人間の生き方や価値観の参考となる観点を提供し続けている人物として良寛を取り上げた。

3. 研究の方法

取り上げた4名の人物(川村修就,北一輝,田中角栄,良寛)に関する教育内容を、関係文献やフィールドワークによって抽出し、教授計画書を作成した。それらを、中学校、高等学校、大学での授業において、実験的に試行し、生徒・学生に感想文を書かせることによって、認識の変化や高まりを分析した。

4. 研究成果

(1)川村修就に関する教育内容開発については、新潟市歴史博物館の収蔵展示物を活用した教材を作成し、附属新潟中学校3年生を対象とした実験授業において、その有効性を確かめることができた。授業の中核となる問いは「なぜ、川村修就は幕府に開国貿易を進言したのか」というものである。これに対する仮説的回答としての推論的解釈は、

官僚として抜け荷取り締めりが困難であるとする現状把握に伴う事態の追認のため

薩摩など西南雄藩に対抗するためには開国貿易による幕府の経済力強化が必要と判断したため

西欧列強に対抗するには開国貿易を通じた日本の近代化が焦眉の課題と考えたため、などである。生徒の代表的感想として、以下のような教材の効果を示したものが多数見られた。

・「鎖国のくわしいところや、新潟との関係性や裏でおこなわれていたことなど、教科書や学校で勉強できないことを勉強できてよかった。なぜ開国したかについて、新潟奉行であった川村修就が開国を進言したことなど知らなかったことがよくわかった。歴史の大きな流れを、身近な新潟を使って勉強することによって身近に感じた。開国してからの新潟についても触れられていて歴史の流れがつかみやすかった。」

・「川村修就からはじまって、新潟から世界に広がる貿易やわいろなど闇の部分も知りました。幕末から明治にかけて、日本の外交の深いところを知れてよかったです。貿易をすることで互いに利潤をもたらす、考え方の異なった薩摩藩と長州藩が協力して討幕運

動をするようにまでなったのはすごいと思いました。貿易の持つ力にいち早く気づいた坂本龍馬のおかげで明治維新が起こったのだと思いました。」

・「とても興味深い内容でした。新潟の上知だけが成功していたのは驚きでした。川村修就はとても優秀な人だったんですね。そんな人が初代新潟奉行であったことを誇りに思います。日米修好通商条約は、不平等な点はありましたが、五港を開港したという点においては彼の判断はよかったと思います。新潟といえば湊町。湊町というと、にぎやかな感じがするので、私は新潟が湊町と呼ばれていたことが嬉しいです。教科書に載っていない歴史の細部にはおもしろいことがたくさんありますね。もっと歴史を詳しく学習したくなりました。」

(2)北一輝に関する教育内容開発については、内政改革と外交政策に関する彼の考え方を中心とする教材を作成し、新潟大学の学生を対象とした講義で、その有効性を検証した。教材の中核となるテーマは「北一輝の政治思想の本質は何か」というものであり、これに対する仮説的回答としての推論的解釈は

国家主義者

国家社会主義者

国民権主義者、などである。

開発した教材の効果を示した、学生の感想には以下のものなどがある。

・「北一輝という名前は聞いたことがあるが、どのような人かわからなかった。今回の講義を聞いて、彼の政治思想は確かに、3つの読まれ方が可能だと思った。しかし、私も国民権主義者のようだと感じた。彼が、佐渡島での普通選挙のようなものを通して、国民意識を身につけていたらしいということは、非常に注目すべきことだ。しかも、日本改造法案大綱」の中で、今日の日本国憲法の中に規定されているような権利まで盛り込んでいることからすると、やはり国民権主義者のようだなあと思った。外交に関する思想では、アジアが、イギリスやロシアなどの国から、権益などを吸い取られていることを批判しながら、資本の提供によって成長してきたことも認め、「お金を借りるときは借りて、成長していこう」という考えに至っているところは、非常に興味深いものだと思う。私だったら矛盾を感じてしまったと思う。」

・「この教材について、政策の裏にある政治思想が大切だということがわかりました。北一輝については日本史の二二六事件でしか名前を知りませんでした。こんなに奥が深いんだと思いました。このように歴史上の人物一人をとっても、こんなに奥が深いのだから、たくさんの人物を深く知ることで、自分の考え方も変わってくるだろうなと思いま

した。今回の講義で、やはり社会科は暗記科目ではいけない、深く考えさせる授業にするための努力をしなければいけないなと思いました。」

(3) 田中角栄に関する教育内容開発については、政治学の理論を応用した田中政治の特質を考えさせる教材を開発し、長岡高校生を対象とした実験授業で、その有効性を検証した。教材の中核となる発問は、「田中角栄の行った政策の本質は何だったのか」というものであり、それに対する仮説的回答としての推論的解釈は以下の3つである。

金権・利益誘導型政治

大きな政府の構築

差是正政治

開発した教材の効果を試すための実験授業は教育学部の学生によって高校生を対象として実施した。授業の成果を示した代表的な高校生の感想としては以下のようなものがある。

・「田中角栄が戦後の日本を立て直すために行った、地方と都市の格差をなくすために力を入れてきたこれらの政策はとてもよいことだと思った。これからの日本には、大きな政府を小さな政府に買えようとする動き(小泉構造改革のこと)があるが、それらについて考えていくきっかけになった。未来の有権者として学ぶことの多かった有意義な授業でした。」

・「学生の方々が工夫した授業をしてくれてよかったです。田中角栄さんの「ガソリン税法」も「塩谷トンネル建設」も、どちらも知らなかった政策だったけれど、分かりやすかったし、色々な資料を見せてもらって、自分で考えたりすることができました。1つの政策についても、別の立場にたつと、見え方が変わるので、良い悪いと決めるのは難しいと思いました。税や公共事業、政策について考えるとき、色々な視点にたって、考えていくことが大切だと思いました。」

・「今回の授業は、実際に新潟大学で教育学を学ぶ学生の方たちに特別講師として授業をしていただき、グラフや写真など資料が充実していて分かりやすかった。また、その資料を見た自分の感想や意見を述べる、ということが生徒参加型の授業でとても生き生きとしていたと思う。数年後には私たちも有権者となるので、その人の政策や日本の情勢を見て、しっかりと未来を選んでいかなければいけない、ということがわかった。」

(4) 良寛に関する教育内容開発については、彼の生き方の動機に関する4つの解釈に基づく教材開発を行い、他の人物と比較させる指導計画を作成した。教材のテーマは「なぜ、良寛は世俗を捨てるような生き方をしたの

か、なぜ世俗を捨てた良寛を、世俗の人々は捨てようとししないのか」というものである。前者の問いに対する仮説的回答としての推論的解釈は以下のようなものである。

実務経営能力の欠如の自覚

封建的支配体制に組み込まれた寺社からの逃避

仏教徒の本来の修行(乞食、こつじきなど)の励行

道元の宗旨からの逸脱(詩歌や老荘思想への傾斜)に対する破戒僧としての反省

後者の問いに対しては、人々が自分の生き方と比較し、自分が何にこだわり、どのような欲望に悩んでいるかを反省させてくれるから、などが想定される。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

児玉康弘、「世界史内容構成原理の比較研究 学習指導要領の再検討を通して」、『社会科教育研究』(日本社会科教育学会) 査読有、第112号、pp.1-12、2011年

児玉康弘、柴田透、「初期社会科高校教科書における経済学的内容の変遷研究 昭和22年版「一般社会(第10学年)」から26年版へ」、『公民教育研究』(日本公民教育学会) 査読有、第17号、pp.17-32、2010年

児玉康弘、「地域学習のグローバル化 近世新潟湊と川村修就の場合」、『教育実践総合研究』(新潟大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要) 査読無、第8号、pp.1-21、2009年

児玉康弘、柴田透、「高校初期社会科経済教科書研究 昭和22年『物質の生産と流通』の場合」、『新潟大学教育学部研究紀要』 査読無、第1巻第2号、pp.223-232、2009年

児玉康弘、「政治思想の解釈批判学習 北一輝の場合」、『新潟大学教育人間科学部紀要』、第10巻第2号、査読無、pp.127-139、2008年

児玉康弘、宮園衛「現代タイ理解を深める社会科授業開発」、『教育実践総合研究』(新潟大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要)、第7号、査読無、pp.21-45、2008年

児玉康弘、「「福岡駅」の実践の再検討 社会的対話の分析と理論比較」、『社会科教育研究』(全国社会科教育学会) 査読有、第68号、pp.1-10、2008年

[学会発表](計7件)

児玉康弘、「歴史教育における市民性の育成」、宮崎シテイズンシップ教育研究会、2012年3月17日、宮崎大学

児玉康弘、「思考力・判断力を育成する歴史学習の指導事例」、全国歴史教育研究協議会、2011年7月28日、宮崎市内

児玉康弘、「世界史構成の再検討」、日本西洋史学会、2010年5月29日、別府大学

児玉康弘、「社会科の再定義は必要か？ 3つの定義比較と私の取り組み」、全国社会科教育学会、2009年10月8日、弘前大学

児玉康弘、柴田透、「高校初期社会科経済教科書研究 昭和22年版から26年版へ」、日本公民教育学会、2009年6月18日、茨城大学

児玉康弘、「地域学習のグローバル化 近世新潟を事例として」、日本グローバル教育学会、2008年9月8日、岡山大学

児玉康弘、「政治思想の解釈批判学習 北一輝の場合」、日本公民教育学会、2008年6月21日、大分大学

〔図書〕(計8件)

児玉康弘『地方の課題を歴史的に考察させるための郷土人物教育内容開発研究』、平成20年度～平成23年度科学研究費補助金【基盤研究C】研究成果報告書、文書館、2012年、158頁(pp.1-158)

社会認識教育学会編、明治図書『新社会科教育学ハンドブック』2012年、417頁(pp.43-51)

新潟大学教育学部附属新潟中学校著、明治図書『この“思考スキル”で高める思考力・判断力・表現力』2012年、167頁(pp.3-4)

小原友行、児玉康弘編著、明治図書、『思考力・判断力・表現力をつける中学歴史授業モデル』、2011年、134頁(pp.14-23)

片上宗二、木村博一、永田忠道編著、明治図書、『混迷の時代 社会科はどこへ向かえばよいのか』、2011年、共著、189頁(pp.116-125)

社会認識教育学会編、学術図書出版社、『中学校社会科教育』、2010年、共著、193頁(pp.18-25)

原田智仁編著、保育出版社、『社会科教育のフロンティア』、2010年、共著、209頁(pp.23-27)

日本社会科教育学会編、明治図書、『社会科授業力の開発』、2008年、共著、319頁(pp.302-317)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

児玉 康弘 (KODAMA YASUHIRO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：70377167

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：